

【60】宇宙に地球以外の文明は存在するのか？

宇宙には、千億個オーダーの銀河があり、それぞれに我が”天の川銀河系”と同様に 1000~3000 億個の星があるので、星の数は文字通り無限ともいえるものです。

しかし、その限りない星々の中に地球と同じように”生物”がそして”人類“がいるとは一向聞こえてきません。

在来型の生物が居るとしたら、まず地球と同様の条件の星を探せと、発熱している恒星（太陽に相当）のまわりを周回している惑星の発見に努め、我々の銀河系「天の川銀河」の中のことですが、候補まで含めるともう数千個が発見されています。

一つの銀河に仮に 1 万の惑星が在るとすると、全宇宙には千億個の銀河がありますから 1 万の千億倍と、惑星の数も膨大なものになります。

そうすると、その中には地球と同じように”生物”の生存を可能にする惑星が多数あり、中には地球人を超える高度の文明を持った”人類“が居る惑星があってもおかしくないと考えることが出来ます。

それなのに、UFO やエイリアン的な SF 小説は別にして、実証的な意味で”異星人”が地球に何らかの手段で接触してきたという話しが全く無いのが不思議です。

イギリスの有名な天体物理学者スティーブン・ホーキング博士（故人）が来日して宇宙の講演をしたとき、聴衆からの”何故、地球以外に人間がいないように見えるのか”と云う質問がありました。

ホーキング博士の答えは、”高度に進歩した文明は短時間で滅びるので、他の文明と接触する時間が無い”というものです。

これを聴いていた当時の石原慎太郎都知事が、短時間とはどれくらいのことかと追加質問をしたら、”せいぜい 100 年か 200 年”とのことでした。

石原氏はこの事を自伝的な著述の中で興味深げに書いておられますが、昨今の世界情勢を見ていると、ホーキング博士の推定も正しい予測ではないのかと、感心するやら心配するやら複雑な気持ちです。